様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2022～2023
課題番号：２２Ｋ２００２２

研究課題名（和文）オウィディウス『恋の技術』及び『恋の治療法』における「環」のモチーフ

研究課題名（英文）Orbis motifs in Ovid's Ars amatoria and Remedia amoris

研究代表者
竹下　哲文（Takeshita, Tetsufumi）

京都大学・文学研究科・助教

研究者番号：８０９６５３２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，アウグストゥス時代のローマを代表する詩人オウィディウスの『恋の技術』および『恋の治療法』を対象として，そこに様々な形で表された「環」のモチーフの調査と分析を行なった．「世界（ないし環）」（orbis）と「都市」（urbs）との言葉遊び的関連付けや，作中に見られる円環構造（ring-composition）といった「環」に関連するモチーフが，「（円環）世界・都市・円形劇場」という三重円を舞台として行なわれる「遊戯としての恋愛」という本作の核心的アイディアの展開に寄与していることを明らかにした．

研究成果の学術的意義や社会的意義
恋愛詩や専門知識を主題とする教訓詩（didactic poetry）といった既存のジャンルを自由に横断しつつパロディを交えて創作を行なうオウィディウスという詩人を理解するにあたりキーとなる『恋の技術』という作品について，個別の語彙のみならず叙述の構造にも着目しつつ彼の詩的技法を明らかにすることができた．また本文の一部について写本の読みの有力さを改めて論じるなど新しい提案を行なった．

研究成果の概要（英文）：In this study, I investigated and analyzed the motifs of the 'circle orbis)' as represented in various forms in Ovid's "Ars amatoria" and 'Remedia amoris'. I elucidated how the motifs, such as the paretymological connection between 'world or circle (orbis)' and 'city (urbs)', and the ring-composition structure, contribute to the development of the central idea of love as a 'game', which is staged within the framework of the 'circular world - city - and theatre'.

研究分野：西洋古典学

キーワード：西洋古典学　ラテン文学　オウィディウス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は，ローマ帝政初期に活動したラテン詩人オウィディウス（前 43-後 18）の『恋の技術』及び『恋の治療法』における「環」のモチーフの諸相を明らかにすることを目指すものである．「恋の技術」と「恋から抜け出る技術」を主題化するという特異なスタンスで書かれたこの二作は，恋愛詩や教訓詩（知識の伝授という形式で詩を綴るジャンル）の伝統を汲んで書かれた分野横断的な作品である．本研究は，こうした複雑な性格を持つ『恋の技術』と『恋の治療法』を捉える手がかりとして「環」のモチーフに着目し，文芸批評的な見地にとどまらず本文批判的な問題にも目を配る多角的なアプローチを試みる．本研究課題着想の背景として，申請者がこれまでオウィディウスの同時代人であり，同じく「環」のモチーフを自作において効果的に活用したマーニーリウス『アストロノミカ』を研究していたという事情がある．この二人の類似性と相違点を見比べる中で本研究の重要性を認識し，今回の研究課題設定に至ったものである．

２．研究の目的

本研究は，上述のラテン詩人オウィディウスの『恋の技術』及び『恋の治療法』における「環」のモチーフ（「環」を表す語彙や叙述の円環構造）の諸相を明らかにすることを目指すものである．語彙のみならず叙述の構造にまでちりばめられた「環」のモチーフに着目することにより，両作品における特に議論の多い詩句について，新しい解釈の提示を試みる．それとともに，古代ギリシア・ローマ文学のひとつのジャンルである教訓詩と呼ばれる分野において，オウィディウスが果たした貢献の新しい側面を明らかにすることを目指す．

３．研究の方法

本研究は，当初の予定として，以下のような具体的方法に基づき研究課題に取り組んできた．

(a) 語彙の悉皆調査：すでに触れた orbis の他，circus や circulus といった類似の語の出現箇所を把握するとともに，その個々の箇所におけるイメージの広がりを確定する．

(b) 叙述戦略としての円環構造の解明：主題の反復や回帰など，叙述戦略上の円環構造が現れていると言える個所を特定し，原典の精読に基づいてその機能を解明する．

(c) 本文の再検証：(a)で探査した箇所のうち写本上の異同や修正を巡って行われている議論の妥当性を明らかにする．

４．研究成果

本研究では，アウグストゥス時代のローマを代表する詩人オウィディウスの『恋の技術』および『恋の治療法』を対象として，そこに様々な形で表された「環」のモチーフの調査と分析を行なっ

た．「世界（ないし環）」（orbis）と「都市」（urbs）との言葉遊び的関連付けや，作中に見られる円環構造（ring-composition）といった「環」に関連するモチーフが，「（円環）世界・都市・円形劇場」という三重円を舞台として行なわれる「遊戯としての恋愛」という本作の核心的アイディアの展開に寄与していることを明らかにした．これにより，恋愛詩や

専門知識を主題とする教訓詩（didactic poetry）といった既存のジャンルを自由に横断しつつパロディを交えて創作を行なうオウィディウスという詩人を理解するにあたりキーとなる『恋の技術』という作品について，個別の語彙のみならず叙述の構造にも着目しつつ彼の詩的技法を明らかにすることができた．また本文の一部について写本の読みの有力さを改めて論じるなど新しい提案を行なった．この研究成果は 2023 年京都大学西洋古典研究会において発表し，本報告記述時点で論文として投稿中である．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Tetsufumi Takeshita	４．巻 166(2)
２．論文標題 An Emendation in Aeschylus, Supplices 1071	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Philologus	６．最初と最後の頁 297-300
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/phil-2023-0110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹下哲文	４．巻 71
２．論文標題 書評：Alessio Mancini, Lucano, Bellum Civile VIII. Introduzione, testo, traduzione e commento (Texte und Kommentare 70)	５．発行年 2024年
３．雑誌名 西洋古典学研究	６．最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 竹下哲文
２．発表標題 オウィディウス『恋の技術』における「環」のモチーフ
３．学会等名 京都大学西洋古典研究会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関